

令和3年度熊本県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会「第5回理事会」議事要旨

会 場 県民総合運動公園陸上競技場内1階102会議室
方 法 来場とオンラインのハイブリッド開催
日 時 令和4年3月14日（月）午後6時～午後7時30分
出席者 水野修身、石原輝捷、齋藤久允、林田久美子、大山道弘、奥村真太郎、原 孝弘（来場 7人）
山中清志、桐原正喜、廣田悦生、加藤貴一郎、福永賀友（オンライン 5人）
太田黒、梶田（事務局）

1 開会

2 挨拶 水野会長挨拶

3 議長選出 水野会長議長

4 議事

（1）総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度について（資料P1～3）

・事務局から登録・認証制度の概要について説明し、次年度に限り、登録申請クラブに対して5,000円を補助し、財源は熊本地震の際にいただいた支援金（20万円弱）を充当することを提案。

― 協議の結果、承認 ―

（2）令和4・5年度の役員改選及び規約の改正について（資料P4）

・本協議会は総合型地域スポーツクラブの自主的なネットワーク組織として、現在創設して12年を迎える。これまでは、本協議会の認知度向上や組織基盤整備のため、県スポーツ協会から選出した理事が会長となってきた。

・本協議会自体、クラブ間ネットワークも徐々に構築され、成熟してきたと思われる。

・令和4年度から登録・認証制度の運用開始となり、県スポーツ協会は登録審査会を設置する。その長が現在でいう水野会長の選出ポストであるため、役割を明確にするためにも、県スポーツ協会からの枠を2人から1人に減らし、会長・副会長については北・中央・南から選出された方に就任いただくことを提案。

・併せて、本協議会の規則について、事務局の所在は「会長の所属する団体に置く」から「県民総合運動公園陸上競技場内に置く」とし、事務局機能はスポーツ協会でサポートできる体制を維持することを提案。

― 協議の結果、承認 ―

・クラブの主体性を高めるためにも、県の会長はクラブ関係者を据えた方がいいとの意見。

（3）徳島県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会からの支援金について（資料P5）

・令和2年熊本豪雨災害に対する支援金として、昨年度に引き続き徳島県から送金があった旨報告。

・昨年度同様、支援金は全額被災地クラブに送金する旨提案。

― 協議の結果、承認 ―

・本協議会加入クラブであるカルヴァーリョ・ラッソ人吉には10万円、非加入クラブのくまむらスマイルスポーツクラブとJKAトレジャークラブには4万5千円ずつで承認。

（4）令和4年度事業計画（案）について（資料P6～8）

（5）令和4年度予算（案）について（資料No.9～10）

・一括して齋藤理事長から説明。

・令和4年度のテーマは「原点回帰」とし、主な変更点は下記のとおり。

① 「県内クラブ交流大会」の実施主体は県スポーツ協会とし、本協議会ではイトメンの売上を活用した種

目別交流大会等の実施に力を入れる。

- ② 研修会は評議員会後に1回、その後ブロック持ち回りで1回の計2回とすること
 - ③ 県民スポーツの日に係る経費はイトメンの売上ではなく一般会計から支出することとし、指導者研修会の意味合いを持たせての実施とすること。
 - ④ クラブネットワークアクションが集合で開催された場合、本協議会からバスでの輸送を計画に入れる。またオンラインとなった場合は、県内で集合の会場を用意することも視野に入れる。
 - ⑤ 広報について、効果的な実施方法を事務局補助の柘田氏（イベント企画等が本業）を中心に企画・実施していく。
 - ⑥ 人材育成について、プロジェクトスタッフを配置していたが、個々の負担等を考慮し、次年度は個人にスタッフを依頼する形は取りやめ、若手の育成に係る研修や勉強会の開催、各種テーマに応じ、希望される方を募集して企画に加わっていただく等の働きかけをしていく。
 - ⑦ 事務局補助について、次年度も引き続き配置し、役割を明確にしながら運営していく。
- ー 協議の結果、承認ー

5 報告

(1) SC 全国ネットワーク総会について（資料 P11～40）

- ・総会資料を説明。
- ・次年度から「企画部会」「広報部会」「男女共同参画部会」の3部会が創設されることを挙げ、「登録・認証制度」や「学校部活動との連携」、「男女共同」に関する議論が深められることを説明。
- ・本協議会でも必要に応じて情報共有していく旨説明。

(2) エリアネットワーク事業について（資料 P41～46）

- ・上下益城郡及び八代エリアでの実施内容について、それぞれ福永理事、齋藤理事長から報告。

6 その他

- ・特になし

7 閉会

